



国労東京全分会長会議が、一月二四日交通会館ホールで開催された。濱中副委員長の司会・座長で始まり、阿部委員長から「包括和解成立後毎月組織拡大している。『国労で試験に合格しよう』から『国労で輝こう』にスローガンを一歩進めた。自信を持って国労加入を呼びかけよう。不採用事件もILO第七次勧告や自治体意見書が統々採択されている。国労東京が全国の先頭に立とう」との挨拶を受け、次に本部・

横浜駅の四七歳の営業主任が、「国労横浜駅分会の仲間が明るいし、何でも話せる。東労組の雰囲気とは大違い」と、○七年一月一日付で国労に加入した。内部抗争に明け暮れる東労組に未来はない。仲間を大切に国労に加入し、共に労働条件を改善しよう!

横浜駅営業主任(47才) 東労組から ↓ 国労へ加入

採択された意見書は、これまでに一七都道府県議会をはじめ全国六八四地方議会、のべ一〇三二本(二〇〇七年一月一七日現在)にのぼる。

吉田書記長からJR不採用事件に関わる情勢報告を受けた。続いて、ITFアジア太平洋地域部長の和田茂氏から「ILO第七次勧告について」講演をいただいた。和田氏は「昨年一月一五日に出された第七次勧告は、ILOが直接関係者を回って調査した結果出されたものであり、かなり踏み込んだ内容となっている。労働側のために動いてもいいとも言っている。どういう形になるかは判らないが、かつてILO特別調査団という例もあった。この勧告を活用して政府に解決を迫ろう」と語った。

その後、笹原書記長が「地方本部からの提起」を行い、辻井(神奈川県)・高橋(神奈川県)・安濃(新潟)・田所(大井工場)各分会長からの質疑を受け、「バッジを包括和解に入れる事について議論する場が少なかった。昇進試験も合格者がまだあまり多くなく、アンバランスもあり、受験回数も反映されていないなどあるが、二〇年間の差別を解消するため、全体の底上げのために決断した。二〇年目で初めて変化が出てきた。この流れを何としても大きなもの」としたい」との集約を行った。

その後次々と決議が採択された。昨年暮れ、世田谷区議会(一一・二〇)、日黒区議会(一一・三〇)、渋谷区議会(一二・六)、港区議会(一二・八)、大田

自治体決議 続々あがる

最後に、東京闘争団・松本繁崇副団長の

決意表明を受け、阿部委員長の団結ガンバローで決意を固めあった。

国労弁護団の岡田尚弁護士からは、「包括和解と新たな訴訟について」報告を受けた。岡田弁護士は「和解は事件の終わりではあるが、闘いの始まりである。和解を生かすも殺すも、これからの闘いによって決まる」と述べ、更に「分割民営化から二〇年たち、分割民営化とは何だったのかと問われ始めている。今の政治はある意味判りやすいので、闘いも創りやすい」など、今後の闘いへの指針を提起された。

その後、笹原書記長が「地方本部からの提起」を行い、辻井(神奈川県)・高橋(神奈川県)・安濃(新潟)・田所(大井工場)各分会長からの質疑を受け、「バッジを包括和解に入れる事について議論する場が少なかった。昇進試験も合格者がまだあまり多くなく、アンバランスもあり、受験回数も反映されていないなどあるが、二〇年間の差別を解消するため、全体の底上げのために決断した。二〇年目で初めて変化が出てきた。この流れを何としても大きなもの」としたい」との集約を行った。

その後次々と決議が採択された。昨年暮れ、世田谷区議会(一一・二〇)、日黒区議会(一一・三〇)、渋谷区議会(一二・六)、港区議会(一二・八)、大田

1・24 組織拡大へ大きな流れを! 地本全分会長会議を開催

○七年国労東京新春旗開きが一月五日、芝・弥生会館で開催された。笹原書記長の司会で始まり、阿部委員長が主催者挨拶を行った。来賓として東京交運労協・岡住議長、東京地評・堤議長、東京全労協・諸隈事務局長、中央共闘・中里議長、国労弁護団・鴨田弁護士、民主党・名取都議、社民党都連合・中川代表、共産党都委員会・田村さん、公明党・石井都議から激励を受けた。上部機関を代表して中央本部・佐藤勝雄委員長から新年の挨拶と今年にかける決意が披露された。乾杯は東日本本部の伊藤秀樹委員長が行い歓迎に移った。



組合員の購読料は組合費に含まれます
荒川区西日暮里2-55-1
国鉄労組東京地方本部
発行責任者 阿部 力
編集責任者 宮崎浩則
No. 1683 定価 15円
2007年 2月5日

国労加入を 大胆に訴えよう

○七新春旗開きを開催



